

「中城ごさまる科」評価

1 目的

本村の小中学校において、地域の歴史・文化に係る地域素材を積極的に教材化し、特に本村が有する世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つ中城城跡とその城主、護佐丸を素材に取り上げ、「中城ごさまる科」の授業とともに本村の文化を学ぶことで、中城の歴史と文化、世界遺産を有する本村について触れ、郷土の理解を深めることや郷土への誇りと愛着を育み、自らの目標に向かって学び続ける児童生徒の育成を目指す。

2 事業の概要・実績

- ・本事業は、村内全ての小学校を教育課程特例校として申請し、平成26年度から「中城ごさまる科」を導入して10年目を迎える。副読本・指導書・教材DVD等を作成し、故郷の歴史・文化・自然を通じた学習を行う。
- ・中学校においては、総合的な学習の時間において実施し、キャリア教育へとつなげて実施している。

3 効果（成果）

- ・各学校に「中城ごさまる科」の担当者を校務分掌に位置づけ、担当者研修会を4回開催することで、本事業の目的や育てたい児童像を共通理解できた。また、研修会では、各学校の取組を紹介することで、3小学校間で情報交換ができ、本科に対する共通実践ができた。
- ・3学期には、各学校での成果報告会、また、「中城村教育の日」において学習成果を披露することで、子供達の学びを保護者や地域住民に披露することができ、本事業への保護者、地域への関心が高かった。
- ・「中城村教育の日」の参加者アンケートでは、ごさまる科で、郷土の歴史を繰り返し学習することで、学習内容の深まりが感じられた、という感想もあり、保護者・地域への理解が深まった。
- ・中城城跡の見学、「グスクの会」から中城村の歴史等の話を聞くことにより、中城村の伝統と文化を理解することができ、主体的に学ぶ資質能力が養われた。また、外部人材の活用により「社会に開かれた教育課程」が推進できた。
- ・「中城ごさまる科」児童アンケートでは、「自分たちの村に、こんなすごい城があることがよかったし、石積みもいろいろ工夫があることがすごい」という意見があり、郷土の理解や郷土への誇り愛着への高まりが見られた。
- ・「中城ごさまる科」を通して、SDGsの目標「11 住み続けられるまちづくりを」、達成目標「11-4 世界の文化遺産や自然遺産を保護し、保っていくための努力を強化する」に取り組むことができた。

4 学識経験者の意見

- ・小学校において「中城ごさまる科」を導入し地域の歴史や琉球史を学ぶ機会があるということは、地域への愛着・誇りをもつことに繋がっており、大変評価できることから今後も継続してもらいたい。
- ・先駆的な取り組みで世間の関心も高く、護佐丸歴史資料図書館で中城村の歴史と文化を学ぶことができるので評価できる。
- ・本事業をより良いものにしていく動きが見えたことは評価できる。

5 教育委員会の点検・評価

- ・ごさまる科の学習において、中城城跡の現地見学や歴史の道の案内人など地域の人材を活用しているので評価できる。
- ・特例校として歴史文化学習を行うために、授業時数の確保や指導内容の方針について学校や関係機関と協力し、授業を実施できたことは評価できる。
- ・指導主事が各学校へ訪問し直接助言を行ったことにより、ごさまる科の授業改善に繋がったことは評価できる。
- ・将来的には中城ごさまる科の授業と同時に、本村の文化財や芸能等も学ぶことで、郷土理解をより深めていってもらいたい。
- ・小学校においては、教材を活用し取り組みや護佐丸歴史資料図書館を活用した取り組みも行われており、自分の住む町に親しみが湧き郷土史の発展学習に繋がったので評価できる。
- ・SDGsの目標への取り組みが新しい試みであり評価できる。

6 課題と対応策

【課題】新職員（転入職員）「中城ごさまる科」の理解に時間がかかる。

対応策→年度当初に本科に係る研修を継続して行う。

【課題】教材本の破損や転入児童の増加により、教材本が不足してきている。

対応策→「中城ごさまる科」教材本の改訂も含め、デジタルブックへの変更を計画している。